



総合相談室だより 9月号（第28号）

「二項対立で割り切れないこと」

秋の気配を少し感じるようになってきました。

皆さんは思い思いに夏休みを過ごされていることと思います。

まだまだ夏休みは続きますので、最後まで思い存分好きなようにお過ごしください。

私たちは、日常生活の中で行動選択する際、
反対の関係になっている2つの選択肢から1つを選ぶ
ということをしています。

例えば、「マスクをつけること」か「マスクをつけないこと」か。

このように反対の関係になっているペアを「二項対立」と言います。

「マスクをつけること」と「マスクをつけないこと」
「ワクチンをうつこと」と「ワクチンをうたないこと」
「会食に参加すること」と「会食に参加しないこと」 など。

そして、二項対立において、
どちらかを「正しい」と評価し、
もう一方を「間違い」と評価する。

このように割り切ることで、秩序がつくられて、
社会が安定することができます。

しかし、私たちが生きている実際の世界は、
白黒はっきりしない世界です。

1つの視点から見れば「正しい」ものでも、別の視点
から見れば「間違い」であることがほとんどです。

例えば、「マスクをすること」はコロナ感染予防に効果的
ですが、猛暑の中では熱中症のリスクを高めます。



二項対立は便利なものですので、
それ自体を否定する必要はありません。

ただ、二項対立ですべてを割り切ろうとすると、
割り切れない部分が見失われ、
気がついたら状況にそぐわないことをしている、なんてことになるかもしれません。

「自分」と「他者」とに分けたときに割り切れないこと。
「合理」と「非合理」とに分けたときに割り切れないこと。
「正義」と「悪」とに分けたときに割り切れないこと。

そこで、二項対立を用いる際、その対立の仕方を絶対的なものではなく、
あくまでも仮のものとして捉えること、
そして、割り切れないことを見落とさないようにすることが
大切かもしれません。

何か自分の望まないような方向に進んでいるように
感じたら、割り切れないことを見落とししていないか
点検してみるのもいいかもしれません。
私たちもお手伝いさせていただきます。

専任カウンセラー
井ノ崎敦子

令和4年9月1日発行

